

眼形成・眼窩・涙道外科を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	眼窩骨折患者における眼窩骨の形状の違いに関する研究
研究機関の長(試料・情報の管理責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	眼形成・眼窩・涙道外科 (職名) 教授(特任)(氏名) 高橋靖弘
研究の対象となる方	2016年1月から2023年12月までに当科を受診した眼窩下壁骨折もしくは眼窩内壁骨折の患者さん
研究期間	研究実施承認日 ~ 2025年3月31日
研究目的及び利用方法	<p>[研究目的]</p> <p>眼窩骨折は眼球が収まる骨のくぼみである眼窩の骨が骨折する疾患で、四角錐の形状をした眼窩壁のうち、下壁と内壁が特に折れます。小児では下壁が折れやすく、高齢者では内壁が折れやすいですが、その原因はわかっていません。眼窩は成長とともにその形状が変化するため、それが年齢による骨折部位の違いに影響を与えている可能性があります。本研究では、CT画像を用いて眼窩壁の形状を調べ、眼窩骨折部位別及び年齢別にその形状の違いに差があるかを比較することを目的としています。</p> <p>[利用方法]</p> <p>診療情報の収集目的で、カルテを利用します。またCT画像から、眼窩骨の形状を測定します。患者さんを骨折部位別及び年齢別にグループ分けし、グループ間の眼窩骨折の形状の差を統計学的に分析します。</p> <p>[外部への試料・情報の提供]</p> <p>非該当</p> <p>[外部への提供開始日]</p> <p>非該当</p>
研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	<p>試料：非該当</p> <p>情報：診療録(カルテ)から、年齢、性別、左右、受傷原因に関する情報を収集。また眼窩骨の形状の測定にCT画像を用います。</p>
提供する試料・情報を用いる学外の研究責任者	非該当
試料・情報を利用する学外の者	非該当

試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2024年10月31日までに電話により下記問い合わせ先まで申し出てください。
外国への試料・情報の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科 担当者：(職名) 教授 (特任) (氏名) 高橋靖弘 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 12314)